

菅原神社の石碑

田殿、菅原神社の境内に入る手前に石の手水鉢があるが、その後ろに遠慮がちに小さな割石の石碑がある。たたら製鉄に依存した村の風景がよみがえるような碑文が刻まれている。

芝山のたたら師（じ）が菅原神社の石垣を寄付し、村の者が人夫となって積み上げたという内容である。

一般的に山奥に存在した山内（たたら場）と地元との交流は厳しく制限されていたとはいえ、かなな流しで得た砂鉄（小鉄）や、自分で焼いた木炭、また山内で出来た鉄製品を牛馬で運ぶ駄賃などは村人の重要な収入源であった。田殿村では山内で出る下肥を引き取る取り決めもあったようだ。

この石に刻まれた碑文は山内の人々と村人との持ちつ持たれつ関係を示す貴重な記録といえる。

